

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 薬学部医療薬学科
名 前 石橋 芳雄
作成日 2025 年 4 月 30 日

教育の責任

本薬学部医療薬学科では、医療人としての責任感、使命感、倫理観及び薬学の専門知識・技術を持ち、患者や治療方法の多様なニーズに対応し、多職種協働によるチーム医療に積極的に参画できる医療人を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献することを教育目標に掲げている。

本薬学部における教育の責任は、学生の薬学的知識や技術の習得だけでなく、倫理的なプロフェッショナリズムの養成や社会への貢献を含む幅広い側面にわたる。

したがって、私は下記科目の担当を通して学生が薬剤師としての基本的な知識やスキルを修得できるようサポートするとともに、医療チームの一員としての役割を果たせるよう教育に注力する。

また、本学での授業の他に、薬学部教務委員会の活動を通して学内・学外で得られた情報を教育活動に活かしている。

担当科目	学部・学科	学年
早期臨床体験実習	薬学部・医療薬学科	1 年前期
微生物学Ⅰ	薬学部・医療薬学科	2 年前期
微生物学Ⅱ	薬学部・医療薬学科	2 年後期
免疫学Ⅰ	薬学部・医療薬学科	2 年後期
免疫学Ⅱ	薬学部・医療薬学科	3 年前期
微生物学実習	薬学部・医療薬学科	3 年前期
総合プレ研究・卒業研究	薬学部・医療薬学科	3 年前期
大学院 感染看護学特論Ⅰ	保健医療学部・看護学科	大学院 1 年前期
大学院 感染看護学特論Ⅱ	保健医療学部・看護学科	大学院 1 年前期
大学院 がん看護学特論Ⅱ	保健医療学部・看護学科	大学院 1 年後期

1. 私の理念・目的

1) 私の理念

薬学教育における私の理念は、学生の成長と発展を支援し、優れた薬剤師としての能力を育むことを中心に据えている。

薬学での私の専門分野は微生物学、免疫学であり、これらの基礎専門科目の講義および実習に携わっている。薬学基礎専門分野の知識・技術は急速に進歩しており、常に最新の知見を身に付ける必要がある。私は、学生たちが研究的な思考を養い、新たな知

識とイノベーションを追求する環境を提供することを大切にしている。彼らが科学的な方法を理解し、薬学の進歩に寄与するためのスキルと情熱を養えるよう努めている。

また、薬学は実践的な分野である。私は、学生たちが実際の医療現場で臨床的なスキルを自信を持って発揮できるように充実した実習や実践的な演習を提供することを重要視している。基礎理論と実務の結びつきを強化し、臨床現場で役立つ知識と技術を学生が身につけられるよう努めている。

学生の個別の成長への配慮も重要である。各学生は異なる背景や個性、ニーズを持っている。私の理念は、学生一人ひとりの強みや興味・関心に応じて教育をカスタマイズし、彼らの成長と発展を最大限に引き出すことである。個別のサポートやフィードバックを通じて、学生たちが自己を理解し、自信を持って進むための土台を築くことができるようにしたい。

これらの理念を実践することで、学生たちが高度な専門知識と人間性を備えた薬剤師として社会に貢献できるようサポートする。

2) 理念をもつに至った背景

薬学教育モデル・コアカリキュラムでは、基礎から臨床までの総合的な 6 年間の学修を求めており、学習成果基盤型教育 (outcome-based education) に力点を置き、「薬剤師として求められる基本的な資質」10 項目が明示され、卒業時に必要とされる学習成果として位置づけられている。したがって基礎専門科目は単に研究マインドの醸成だけでなく、疾病や病態及び薬物治療の論理的理解と臨床応用に繋がる基盤となる分野として重要である。

これまで基礎専門分野として、微生物学、免疫学の講義および実習に携わっている。薬学領域における微生物学および免疫学は、きわめて臨床に即した基礎分野の一つである。近年、チーム医療の一員としての薬剤師の役割がより重要視されるようになっており、患者や医療メンバーに対して、具体的かつ適切な提案を与えられるような使命感を持った薬剤師の養成が求められている。私の教育理念は、このような薬剤師に対する社会的要請と薬学教育の背景に基づいている。

2. 教育の方法・戦略

前述のとおり、薬学領域における微生物学および免疫学は、きわめて臨床に即した基礎分野の一つである。したがって、微生物学および免疫学の教育では、具体的な症例を教育内容により多く盛り込み、各々の疾病の特性を理解した上で感染症治療薬の選択、副作用の回避などを論理的に判断できるような薬剤師の育成を目指している。また、医薬品の標的分子の理解に結び付くよう感染・免疫機構をできるだけ分子レベルで解説し、学生の論理的思考力を培う教育を目指している。

具体的な方法を以下に記す。

教授方法:講義では PowerPoint のアニメーション機能を利用して視覚的に表現することでわかりやすい講義を行う。また、講義資料は予習復習に役立てることができるよう PDF として manaba に掲載する。【根拠資料 1】

授業の工夫:講義に課題演習を取り入れた能動的学習の導入を推進する。

授業以外の諸活動:担当科目についてはオフィスアワーを設けて個別の質問等に対応している。また、チューター学修支援において、担当学生のグループ学修を行う。

自己研鑽:学術論文投稿や学会活動を通して専門科目に関する最新の知見を身に付け、それを教育に反映できるよう努力している。【根拠資料 2, 3】

3. 学習成果

講義では、次回の講義範囲について予習課題を与え、調べた内容を次回講義でプレゼンしてもらうという反転授業の形式を多く取り入れた。学生からは、「発表することで自身の理解が深まった」というコメントも寄せられ、ある程度主体的学習方法は受け入れられた。今後でもできるだけアクティブラーニングを積極的に授業に取り入れる。

4. 改善のための努力

前年度は講義の容量が多いと感じている学生が多かったため、出来るだけ最重要項目に焦点を絞り丁寧に説明するよう心掛けた。アクティブラーニングは、積極的に授業に参加する学生にとっては実りが多いが、主体的な学修習慣が足りない学生にとっては実りが少ないことが課題である。学生が意欲的に授業に参加するよう魅力ある授業内容・講義手法の改善に取り組む。

5. 今後の目標

短期目標

教育における目標としては、微生物学および免疫学について具体的な症例を教育内容により多く盛り込み、各々の疾病の特性を理解した上で感染症治療薬の選択、副作用の回避などを論理的に判断できるような人材(薬剤師および薬学研究者)の育成を目指したい。また、医薬品の標的分子の理解に結び付くよう感染・免疫機構をできるだけ分子レベルで解説し、学生の論理的思考力を培う教育を目指したい。

教育手法については、次年度講義に能動的学習法の一つとして反転授業を取り入れ、学生が自ら学ぶ習慣を定着させていきたい。

長期目標

研究活動においては、微生物感染および免疫疾患を主な研究対象として、それらの病態・病因の解明に取り組み、その成果を新たな治療薬の開発に結びつけたい。これらの研究成果をプレ総合研究および卒業研究生の教育研究指導にも役立てる。

【添付資料】

【根拠資料 1 講義資料】

微生物学 I https://sums.manaba.jp/ct/course_112671

微生物学 II https://sums.manaba.jp/ct/course_126875

免疫学 I https://sums.manaba.jp/ct/course_126878

免疫学 II https://sums.manaba.jp/ct/course_112704

【根拠資料 2 学術論文】

1. Identification of heparin-binding proteins expressed on *Trichosporon asahii* cell surface. Ichikawa T, Ikeda Y, Sadanaga J, Kikuchi A, Kawamura K, Ikeda R, Ishibashi Y. Yeast. <https://doi.org/10.1002/yea.3928>

【根拠資料 3 学術論文】

1. Identification of the cell-surface lectin domain-containing protein expressed in the adhesive colony morphology of *Trichosporon asahii* Ichikawa T and Ishibashi Y. Medical Mycology. <https://doi.org/10.1093/mmy/myae119>